

COVID-19 ワクチンの特許権放棄に関する EFPIA のステートメント

2021年5月6日に欧州の *European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations (EFPIA)* が発表したステートメントを日本語に翻訳したものです。本ステートメントの正式言語は英語であり、その内容およびその解釈については英語を優先します。[原文](#)は、www.efpia.eu をご参照ください。

米政府が COVID-19 ワクチンの特許権放棄の支持を表明したことについて、欧州製薬団体連合会 (EFPIA) のナタリー・モル理事長は次のように述べています。「バイデン政権による特許権放棄の支持表明は、近視眼的で効果のない決定であり、猛威をふるう感染症との厳しい闘いにおいてようやく得られた成果を脅かすものです。ワクチンによって世界中の人々を守るという目標には全面的に賛同しますが、特許権を放棄すれば、コロナウイルスとの闘いに勝つことはより困難なものになります」

「世界中の人々にワクチンを届けるために生産能力を高めるには、パートナーとなる製造業者の協力を得るために、ワクチン開発者のスキルと技術的なノウハウが必要となります。特許権の放棄を通じて、世界中の未知の製造所がワクチン製造の複雑なプロセスに取り組むことを期待しても、生産能力の拡大は容易に達成できるものではありません。特許権の放棄により、原材料や供給品が確立された効果的なサプライチェーンから、生産性や品質に問題のある効率の低い製造拠点に流出するリスクが発生します。また、世界中のサプライチェーンに偽造ワクチンが入り込む余地を与えることにつながります。生産能力の拡大は、それぞれのワクチンの開発者と専門の製造パートナーとの自発的で協力的なパートナーシップによってはじめて実現できるものです。パートナーシップの障壁を取り除き、世界中の原料や資材の自由な流通を確保し、研究開発を継続することに注力すべきです」

パンデミックが発生した当初から欧州は、新たな診断法や、承認されたワクチンに用いられている mRNA (メッセンジャーリボ核酸) 技術を含め、COVID-19 に関する研究開発とイノベーションのエンジンルームとなっています。このような研究に基づく取り組みが、パンデミック対策の手段となっているのです。これは、開発者にとって新技術の研究のインセンティブとなる知的財産の枠組みに基づくものです。パンデミック対策の重要な手段となるワクチンの開発起源を鑑みて、欧州議会は 2021年4月29日に特許権放棄に反対票を投じ、また、欧州委員会はパンデミック対策の鍵となるイノベーションを支持する姿勢を一貫して維持しています。

世界貿易機関 (WTO) により特許権放棄が認められた場合、新型コロナウイルスの変異種や新たな診断法、治療法、ワクチンに関する研究を継続する企業のインセンティブが失われることとなります。同時に、COVID-19 ワクチンの全世界の生産能力を拡大させることもできなくなります。さらに、COVID-19 ワクチンの特許を取り消すことは、将来のパンデミックに対するイノベーションに基づく取り組みをも否定することになるでしょう。

「欧州が知的財産の支援と特許権放棄への反対を通じて、新型コロナウイルスを克服する唯一の恒久的な方法として、医療イノベーションを支持し続けることが重要です。私たちは、欧州および世界中の人々ニーズに応えるため、ワクチン製造の世界的な拠点として、パートナーシップの構築と設備投資によってワクチンの生産能力の拡大に引き続き注力してまいります」と、ナタリー・モル理事長は述べています。